

箱田支部「ふれあい会」だより

笠間市 社会福祉協議会 箱田支部会長 大月 弘之 電話 72-6168

日頃より社会福祉協議会箱田支部の運営につきまして、皆様方には格別のご協力をいただき厚く感謝申し上げます。さて、少子高齢化が進む中、自治体はもとより地域にお住まいの方々の「つながり・支え合い」がより大切であると感じております。社協箱田支部として、地域住民が安心して過ごせる住み良い地域づくりができるよう、事業運営に努めたいと思っております。今後とも、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

令和6年度 社協箱田支部ふれあい会事業及び地域交流センターはこだ自主サークル等活動・紹介(一部)

社協箱田支部「ふれあい会」 主催事業

○令和6年度 ふれあい配食サービス

社協箱田支部「ふれあい会」では、例年、旧箱田小学校学区内の75歳以上のひとり暮らしの方々へ、お弁当の配食を実施しております。今年度は、12月21日に箱田地区ひめはるボランティア6名の皆さんが、朝早くから地域交流センターはこだに集合し、調理に取りかかり、手際よく美味しいおかずが次々と出来上がっていききました。最後に容器に盛り付けし心のこもった美味しいお弁当が出来上がりました。



ひめはるボランティアの皆さんです。



美味しいお弁当できあがり。

地域ごとに、民生委員さんが安否確認も兼ね、36名の方の自宅にお配りしました。皆さん大喜びでした。

笠間地区支部社協運営委員会交流研修会(県外研修)

11月25日に笠間地区支部社協運営委員会事業として、東日本大震災原子力災害伝承館(福島県双葉町)を視察しました。伝承館は、地震と津波、それにつづいて原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。震災前、震災後の状況を時系列でたどれる様々な資料が展示されています。



また、館内には被災体験を語りつぐ「語り部」があり、それぞれの体験や思いを聴くことができ、あらためて防災に対する意識と災害時の行動、地域としてのつながりが重要であることを強く感じました。

第44回芸能発表会(社協箱田支部「ふれあい会」協賛)

笠間地区地域交流センター連絡協議会が主催する第44回芸能発表会が令和7年2月23日に笠間公民館で開催され、日頃、地域交流センターなどを拠点として自主活動している12組が出演しました。なお、箱田地区からは3組の方々が参加されました。当日は太極拳、カラオケ、三味線、ギター弾き語り、ハワイアンダンスなど、様々なジャンルの発表があり、最初から最後まで目が離せないパフォーマンスを見せて下さり、大いに盛り上げました。皆さんも次年度、奮ってご参加下さい。



箱田名所めぐりハイキング：生活支援体制整備事業「友びきの会」主催・社協箱田支部(ふれあい会)共催

私たちの住んでいる地域(旧箱田小学校学区内)には、たくさんの歴史や文化がありますが、接する機会があまりなく、知られていないのが現状です。「友びきの会」では、その歴史・文化を知る「箱田名所めぐりハイキング」を11月9日に開催し、29名の方が参加されました。「箱田名所めぐりハイキング」は、地域交流センターはこだを出发点、土堂の片庭川の河川敷を歩き、新地の「滝野不動堂」を訪ね、県道を横断し、日本一の達磨大師のある「鳳台院」から木村武山が建立した「大日堂」を拝観し、交流センターはこだまで歩いて戻る約3キロメートルのハイキングです。



(土堂の片庭川河川敷を歩いて)



(地元の田村さんから滝野不動堂について説明を受け、そうか…なるほど。)



(地元の月大さんから鳳台院の説明を受けました。)



(達磨大師の前で)



(大日堂…堂内の壁面や格天の仏画に感動。)

- ・滝野不動堂は、金剛寺門徒の薬王院の別当として管理に当たっていたお堂で、真言宗系山伏修験者が祈禱を行ったところ。享保14年(1729年)に建立され、別名を「新地の不動」と言われています。また、笠間の民話に「新地の爪書き不動」として掲載されています。
 - ・曹洞宗国見山鳳台院は、平安時代後期の永久年間(1113~1118年)に創建された禅寺が前身とされています。境内には、日本一とされる達磨大師像が安置されているほか五重塔なども建立されています。また、毎年5月初旬には約17,000本の石楠花が山肌に赤や白、淡いピンク色などの色とりどりの花が咲き見事です。
 - ・大日堂は、日本画家の木村武山が昭和初期、生家邸内に建立した仏堂で、堂内中央には大日如来坐像が安置され壁面や格天には、武山が描いた仏画が一面に広がっています。
- ※ハイキングに参加された方から、「初めて見た。すばらし絵画ですね」、「由緒のあるお不動さだったんですね」などの驚きの声が聞かれました。令和7年度もハイキングを企画いたします。気軽にご参加を！

生活支援体制整備事業ってなあに

皆さんは、5年 10年後そして将来に向けて、自分たちの地域をどのようにしたいですか？
 少子高齢化、人口減少により、これからの将来の担い手不足が深刻となっていきます。公的なサービスや制度だけでは対応するのが困難になる時代がきます。ひとり暮らしの方や高齢者世帯、そして認知症の方が増えるなかで、
誰もが住みなれた地域で自分らしく生きがいを持って暮らし続けるためには、地域の支え合いが必要です。
 笠間市社会福祉協議会では、行政と地域の皆さまとともに「地域の話し合いの場(協議体)」として地域の情報を共有し、人とのつながりをつくり、定期的に集まり、話し合いをする活動を推進しています。現在、市内には6つの協議体があり、そのひとつが箱田地区の「友びきの会」です。

協議体では、地域の課題があればそのことについて話しあったりしながら自分たちのできることを考えています。必ず何かをやらなくてはいけないというわけでもありません。会議ではないので、気軽に誰でも参加できます。

現在、「友びきの会」では参加できる仲間を増やしています。
 興味のある方は、是非一度、笠間市社会福祉協議会笠間支所(☎0296-73-0084)までお問合せ下さい。

参加をお待ちしております。

